

META、「シオニスト」という語の検閲強化を検討

サム・ビドル（ネット・メディア「インターセプト」記者）著、脇浜義明訳、大賀英二補訳

Intercept, 2024年2月8日

フェイスブックとインスタグラム；その親会社である **META** は、イスラエル人の民族主義を巡る議論に関する規制基準や政策を厳しくすることを検討している。これは5つの市民団体から、そうした規制の変更がガザ戦争等に関する批判や表現の自由を妨げることになるとしており、以下は「インターセプト」社に寄せられた情報である。

META社の政策担当から市民団体宛に、「わが社はヘイトスピーチに関する現行の方針、特に『シオニスト』という語に関して見直しを検討しています」という1月30日付けのメールが送られて、それをインターセプトでも検討した。METAではこれが最終決定をしたものではないとしながらも、方針変更に対する市民グループやデジタル権利擁護団体らの反応を測るEメールだろうと、彼ら市民団体は語っている。ここでは「最近のユーザーや関係者等から投稿されたコンテンツに鑑みて、方針変更を検討せざるを得ないのです」と述べられているが、問題とされるコンテンツの内容や投稿した関係者などは明示されていない。

METAからのEメールを受け取った市民グループの一つである「平和を求めるユダヤ人の声」Jewish Voices for Peaceのオルガナイザー、ダニ・ノーブル Dani Noble は「パレスチナ人の権利と自由を擁護する反シオニズム団体の我々は、METAが政治的イデオロギーである『シオニズム』を、民族的・宗教的アイデンティティとしての『ユダヤ人／ユダヤ教徒』と同じものであるかのように拡大解釈していることに、恐怖を覚える」と語っている。さらにノーブルは、このような方針変更が「パレスチナ人の人権迫害というイスラエル政府の犯罪的な政策やそうした迫害行為に対する責任追及からの逃避を許すことになる」と付け加えた。

長年にわたりMETAは、世界中の3億人に及ぶユーザーたちに中東にユダヤ人国家を建設する運動の支持者、及びその結果成立した国家の自民族中心主義的な政策と行動を支持する人々を指す用語としての「シオニスト」という語の使用を許容してきた。

METAの「シオニスト」という語に関する内部規定では、我々インターセプトが2021年に書いた通り、METAのスピーチ規定では容認される「保護対象語」である、「シオニスト」という語が「ユダヤ人」「イスラエル人」の代用語として使用されていると判断された場合にのみ、不適切な語として検索して排除する役目のモデレーターによって削除するとしていた。METAのいま行おうとしている方針変更は、モデレーターがもっと積極的・挑戦的に規制を拡大し、イスラエルの民族主義的政策と行動を批判する投稿のすべてを削除対象とするという劇的な変化へと進むものだ。

METAスポークスパーソンであるコーリー・チャンブリス Corey Chambliss は、インターセプトの取材に応じて「わが社は民族とか宗教など、保護対象になる特徴を根拠とする、他者への攻撃コンテンツの投稿は許可しない。この方針変更は、このような保護すべき特徴に対して人々はどのような用語を使用すべきかを理解する必要があるため」と語った。さらに、「個人のイデオロギーを指す場合は、『シオニスト』という語は保護対象ではない、しかしこの語はユダヤ人やイスラエルの人々を指すことが多い。中東で起きている諸事件のために世界世論が分極化している現在、『シオニスト』という語を使っている投稿コンテンツをきちんとレビューするためのガイダンスが大切だと信じている」と言う。

10月7日以降の数ヶ月間、名誉毀損防止連盟ADLのような強固な親イスラエル団体らは、反シオニズムを反ユダヤ主義の一形態として扱う新しいタブのオープンを公然と呼びかけ、シオニズムという言葉がしばしば「ユダヤ人」の代用としてユダヤ差別主義者によって使用されていると指摘した。ムスリムの草の根権利擁護団体M Power Changeにおける法律・政治面での指導者ヤスミン・タエブ Yasmine Taeb が語っているところでは、ADLや同じような親イスラエル・シオニスト支援団体である米国ユダヤ人委員会が、「シオニスト」という語の使用を規制せよとMETAに働きかけている。その際、METAのチャンブリスは「外部団体の要請でこの方針策定に着手したわけではない」とも語った。一方、タエブは、検討中の方針変更に関わったMETA職員とも話しをしており、METAの方針変更がシオニズム批判に対する大量検閲をもたらすことになり、それはユダヤ人差別とは無関係で、非暴力的なものであるにもかかわらず、現在イスラエルによりガザで行われている大虐殺についての議論を制限することになると語っている。

たしかに、反ユダヤ主義的なインスタグラムのユーザーは、ユダヤ人嫌悪感情を表現する手段として「私はシオニストが大嫌いだ」といった大まかな投稿をするかもしれない。だが、この種の表現そのものには何らのユダヤ人差別は含まれていない、と市民運動活動家たちは指摘している。実際、米国内でイスラエルのガザ戦争に反対して最も激しい政治活動を行っているのは、反シオニストのユダヤ人である。そしてイスラエルを支持し、擁護するハードコア勢力は、キリスト教徒や米国福音派キリスト教徒のシオニストたちである。

私のインタビューにタエブは、「イスラエルを批判する親パレスチナの言論の抑圧は、ガザのジェノサイドが始まると激しくなりました。言論を扱うMETAはそうした言論抑圧には協力せず、政治的発言の自由を維持するという方針を貫くべきですが、その反対の道を選択したのです」と語った。

我々インターセプトが確認したプレゼンテーション資料によると、METAの新方針のもとで削除対象になる可能性がある投稿文例を関係者に例示して、削除すべきかどうかについて意見を募っている。その一つの文例として、ユダヤ人によるニュース・メディア支配を恐怖だと表現している、明らかに反ユダヤ主義的なものはあったが、他の例文に関してはユダヤ非難ではなく、イスラエル国家の政策とそれを支持する者たちを批判するものであったと、METAのプレゼンテーション文について、パレスチナ人のデジタル権利擁護団体である **7amleh** の代表ナディム・ナシフ Nadim Nashif が私に語ってくれた。ナシフは今週、METAとネット会合を行っている。METAは、主だった関係者と次々とネット会談を行って、彼らの反応を測っており、金曜日の朝には米国の関係者とネット会談を行う予定、とのメールが届いている。

METAの新方針では検閲の対象となる幾つかの例文が挙げられている。「シオニストは戦争犯罪者だ。それはガザを見れば明らかだ」とか、「シオニストは大嫌いだ」とか「今夕、進歩的學生連合の会合があるが、シオニストの参加を拒否する」等々である。そして「ニュースを毎日読みなさい。シオニストは米国人やヨーロッパ人と組んで世界支配を企んでいるのだから」といった投稿例文について、コンテンツ政策について関係者との折衝を担当するMETAの部長ピーター・スターン Peter Stern は、これをユダヤ人の世界征服陰謀論を匂わせるものとしてヘイトスピーチであると見做しており、この点に関してナシフが以下のように話してくれた。

我々インターセプトのインタビューでナシフは、イスラエルと米国とヨーロッパの間の戦略的連携や外交舞台における連携を、「シオン賢者の議定書」のような差別的陰謀論とごちゃ混ぜにすべきではなく、さらにユダヤ人の世界的影響力という人種の偏見が産み出した妄想に陥れたりすべきではないとして、スターンには同意しないと語った。スターンはネット会合において、「シオニズム」が政治的イデオロギーであり、エスニック・グル

ープではなく、ユダヤ人の民族主義アイデンティティとして扱うスタンスであるにもかかわらず、シオニズムはユダヤ人の民族主義的アイデンティティとは無関係であって、一つの政治的イデオロギーであることを認めたとナシフは言う。「この方針変更は、シオニズムとイスラエル政府をユダヤ人差別と混同することで、かえって反ユダヤ主義との闘いを妨害する」とナシフは語った。

ある人がシオニストは「大嫌い」と言ったとして、それがユダヤ人嫌悪を表す言葉かどうかを決めるのは難しく、まずは不可能なことだろう、それは「テレパシーでもなければ分からない」、とナシフ。実際、METAも方針変更の意図を関係者に伝えてはいるものの、まだ具体的な原則、規則や定義などが定まっていないのを見ると、そう簡単な問題でないことが分かる。しかし、MATEがパレスチナ人や他のアラブ人ユーザーのプラットフォーム利用を詳しく点検している状態から判断すると、ナシフやその他の観測筋ではアラブ世界と国際社会の言論活動が不自由になると予測している。

「平和を求めるユダヤ人の声」のノーブルは、「我々はシオニズムに反対するユダヤ人として、イスラエルと親イスラエル派が推進している新定義は、『シオニスト』を『ユダヤ人』または『ユダヤ教徒』を同一視することで、ユダヤ人の安全が保たれると主張するアジェンダをいかに推し進めて来たか、目の当たりにして来た」と語り、さらに「反シオニズムと反ユダヤ主義を混同することは、国家や軍隊に対する正当な批判を抑圧することによって、世界の人権のために戦うすべての人々に害を与えるだけでなく、真の反ユダヤ主義やあらゆる形態の人種差別、過激主義、抑圧を解体するための私たちの集団的な努力を弱体化させるだけでなく、私たちのコミュニティの安全を実際に守ることには何の役にも立たない」と言い足した。